

*助産学実習 I (正常)

授業科目	*助産学実習 I (正常)					実務家教員担当科目	○				
単位	5.	履修	必修	開講年次	1	開講時期	通年				
担当教員	古賀 玉緒										
授業概要	<p>教員は総合病院・クリニック・助産院などの施設における助産師経験および臨地実習の指導経験をいかして、学生が効果的な実習を経験できるよう常に指導者と調整し指導に臨む。</p> <p>正常経過にある対象を受け持ち、助産過程を展開し、実践能力を養う。</p> <p>基礎助産学実習で学修した正常経過にある対象の助産過程を更に発展させ実践する。</p>										
授業形態	実習				授業方法	実習					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>実習要項参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態を説明できる。 2. 対象やその家族に対し、安全安楽な健康診査や助産ケアが実施できる。 3. 対象への健康教育を実施できる。 4. 主体的に意欲をもって実習に取り組むことができる。 5. 責任感を持ち倫理観をふまえ実習に取り組むことができる。 6. 助産過程を展開し正しく表現できる。 										
理想的レベル	<p>標準レベルに到達したうえで、以下のレベルに到達できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象のニードを把握し個別性をふまえて継続的な視点で助産過程を展開できる。 2. 自律して対象や他者とコミュニケーションを図りながら実践できる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合 (数値)				備考					
試験											
小テスト											
レポート		40%									
発表 (口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他		60%									
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	MI31402J
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
これまで経験した助産学実習における自己の課題について改めて学習し実習に臨む。										1	
授業計画											
第1回	実習オリエンテーション										

	<p>実習準備 臨地実習 実習のまとめ</p>
テキスト	<p>堀内成子編集「(助産学講座 5) 助産診断・技術学 I」, 医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 6) 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期, 医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 7) 助産診断・技術学 II [2] 分娩・産褥期」, 医学書院 石井邦子編集「(助産学講座 8) 助産診断・技術学 II [3] 新生児期・乳幼児期」, 医学書院</p>
参考図書・教材 /データ ベース・ 雑誌等の 紹介	<p>日本産婦人科学会他編・監：産婦人科診療ガイドライン 2023, 日本産婦人科学会事務局, 2023 病気がみえる vol. 10 産科 (第 4 版): 医療情報科学研究所編, メディックメディア 北川真理子他編：今日の助産マタニティサイクルの助産診断 (第 4 版), 南江堂 石村由利子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 (第 3 版), 医学書院 エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠・分娩期・産褥期 2020—, 2020, 日本助産学会 妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて～, 公益社団法人 日本産婦人科医会, 中外医学社</p> <p>その他、必要に応じて紹介します。</p>
課題に対する フィードバック の方法	<p>実習記録 (レポート) に関しては、適宜フィードバックします。 実習最終日もしくは実習後に面談を行い、振り返りをします。 全ての実習終了後に行うまとめ発表会にて学びを共有します。</p>
学生への メッセージ・ コメント	<p>妊産褥婦と新生児のアセスメントとケアに関する知識と技術を要するため、基礎科目・専門科目・支援科目および助産学基礎実習で学習したことを復習して実習に臨んで下さい。また、「看護職の倫理綱領」や「看護の倫理原則」を改めて確認し実習に臨みましょう。 本実習は期間・時間ともに長期で不規則になることが考えられるので、健康管理に留意して下さい。 言動・身だしなみにはくれぐれも注意してください。</p>